

平成19年度

病害虫発生予察特殊報(第1号)

平成19年9月18日
神奈川県農業技術センター所長

病害虫名：トビマダラメイガ
Samaria ardentella Ragonot

作物名：チャ

1 発生経過

- (1)平成19年4月に、農業技術センター足柄地区事務所職員より県央地域のチャ園で古葉を食害する鱗翅目幼虫がいるとの連絡を受けた。4月27日に病害虫防除部職員が現地を調査したところ、古葉を食害する幼虫と、古葉をつづりその中で蛹化している個体を確認した。
- (2)被害は約40aのチャ園で、スポット的に散見された。幼虫は上下の葉をつづり、その中に数頭づつ群生し、葉表・葉裏の葉肉部を特異的に食害していた。
- (3)現地で採集した幼虫及び蛹を恒温器内で保護し、羽化した成虫を農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼をしたところ、トビマダラメイガと同定された。
- (4)本県の経済栽培されたチャ樹へのトビマダラメイガの被害を確認したのは、今回が初めてである。

2 形態および生態

(1) 形態

成虫は前翅長7~8mm、胸部背面と前翅の大部分は紫赤色。前翅の前縁と外側約3分の1は黒色。腹部は暗褐色。卵は長径0.3mm内外の楕円形で淡褐色。幼虫は黄褐色で灰黄色の斑紋があり、体には横しわがあつて鳥の糞に似ている。成長すると体長13mmに達する。蛹は体長8mm内外、赤褐色で、頭は丸くて広い。

(2) 生態

年2~3回の発生で幼虫で越冬する。4月頃長楕円形の繭をつくりその中で蛹化、5~6月に第1回の成虫が羽化する。第2、3回目の成虫はそれぞれ、7~8月、9~10月に出現する。卵は葉の表面に10数粒魚鱗状に産下される。幼虫は葉を巻かず、上下の葉を絹糸でつづり、葉の表面に数頭づつ群生する。行動は鈍く、驚かしても体をS字型に曲げたままで、逃げることはない。

3 被害及び寄主植物

(1) 被害

幼虫が葉裏、あるいは葉をつづって重なった部分の葉肉部を食害する。硬化した古葉の被害が多い。葉の食害により樹が衰弱することはないが、食痕が長く残る。

(2) 寄主植物

幼虫の寄主作物はチャのほか、ツバキ、ヒサカキ、サカキ、クス、カキ等が記録されている。

4 防除対策

トビマダラメイガに対して適用のある薬剤は無い。通常の防除を行っている場合は、特に問題とはならない。



古葉をつづった状態



終齢幼虫



終齢幼虫と食害痕



粗繭の中の蛹



蛹 (約 8mm)



成虫 (前翅長 7～8mm)

神奈川県農業技術センター
病虫害防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
テレホンサービス0463-58-6612
<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp>